

JISA 人材フォーラム「働き方の改革と人材」を開催

平成 26 年 2 月 28 日、東京・田町の女性就業支援センターで JISA 人材フォーラム「働き方の改革と人材」が開催された。企画運営はビジネス基盤強化委員会のダイバーシティ部会・人材育成 WG（座長：小野田祐子 TIS(株)執行役員）が行い、参加者は 56 名。

開会にあたり、ダイバーシティ部会の舟橋部会長より「今までダイバーシティ部会は女性の活躍拡大に向けた活動を行ってきたが、加えて男性や多様な人々が自己のキャリアを伸ばしていける環境づくりをテーマとしていく」との挨拶があった。その後、3 つの講演により働き方の改革に係る問題提起が行われた。



最初は、SCSK(株)理事 人材開発部長の河辺恵理氏より「女性の活躍とワーキングスタイル～働きやすい、やりがいのある会社を目指して～」として、自身のキャリア、女性活躍に関する課題、SCSK における働き方の抜本的な改革、ダイバーシティへの取組等について講演を行った。

次いで、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室長の矢島洋子氏より「職場を襲う“大介護時代”～介護と仕事の両立できる社会とは～」として、仕事と介護の両立に関する実態のニーズ、企業における仕事と介護の両立に関する課題について講演を行った。



そして最後に、(同)ユビキタスライフスタイル研究所 代表の萩原高行氏より「ワークスタイル変革を実現する ICT 環境」として、JISA におけるワークスタイル変革の取組、ユビキタスワークスタイル成熟度モデル、今後の JISA での取組、2020 年に向けた予想と夢について講演を行った。

休憩をはさみ、参加者は 6 つのグループに分かれ、田口潤氏（インプレスビジネスメディア取締役「IT Leaders」発行人）のリードにより、3 つの講演内容について意見交換を行い、グループ毎に各講師への質問をまとめた。



主な質問には、客先常駐における残業の削減にはどう取り組んだか、労働時間の削減と生産性及びQCDへの影響は、トップの考えや決断をどのように実行に移していったか、

顧客の理解をどのように得たか、介護支援の公的制度をどのように活用したか等であった。

意見交換をとおり、仕事と介護の両立については男性社員や管理層にも非常に関心の高いテーマであり、ICTを活用したテレワークなど働き方の改革には変革（イノベーション）を起こす契機となる可能性が感じられた。

終了後には情報交換会が行われ、引き続き、講演者及び参加者による活発な情報交流が行われた。フォーラムの詳細は JISA 会報No.113（4月発行）で紹介する予定。

（手計）